釜日夜学校

西成区萩之茶屋2-5-23
釜ヶ崎解放会館内 釜日労争議団 気付
でんわ 632-4273

釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人の指紋押なつ拒否 断固支持!

定住外国人に市民権を

今日夜7じより
市民館3階
(西成署ウラ・公園前)
毎週金曜日

みんなで つくろう
みんなの 会館

三人よれば何とかの知恵

さて一月ももう終わるが……
才一六回越冬闘争は
どう闘われたのか そして

一月も後一週間を残すだけになった。一月往ぬ、二月逃げる、三月去る"とはよく言ったものだと思う。

一月が終わる前に、才一六回越冬闘争について話し合ってみたいと思う。

一九八五年一二月二五日から八六年一月十日までと、二二～三年の例よりも五日間ほど期間は短くなっている。

十二月二八日の夜から一月三日の夜までは、三角公園でも野営がおこなわれていた。これは二年引き続きのこと。

医療センター軒下のフトン敷きは例年どうりおこなわれた。しかし、フトン敷きの時間は日によって変わることが多く、アテにしている仲間から苦情も聞かれた。

三角公園での集会や市民館での学習会が終わってからフトンを敷き始めることになるので、いつもどうり八時からだと思って列をつくって待っていた仲間たちにとっては腹立たしかっただろうと思う。たいがい、集会や学習会に合流するように呼びかけてはいたのだが……。

才一六回越冬闘争の最大の特長は仲間の参加が多かったこと。

フトン敷きや警備に積極的に参加してくれる仲間が常時二十名ぐらいいた。それらの仲間は、共同炊事でメシを食べ、越冬実行準備した部屋で寝る共同生活を越冬期間中おこなった。そして、越冬が終わっても十名程の仲間が、釜日労に参加するようになった。

もう一つの特長は、大阪府警の越冬つぶしがロコツになってきたことだ。夜毎のあの大量の機動隊は何だったのか……。

故山岡同志虐殺糾弾集会

釜日労山谷派遣団帰釜報告

一百名近くの仲間の熱気の中で一

先週の夜間学校は釜日労争議団の集会に合流した。

いつもの夜間学校ならば、四、五名でつつましく話し合っているのだが、この日は市民館の講堂一ぱいの人で、熱気があふれていた。

百名近くの過半は釜の仲間だったが、山谷の山岡さんが殺されたことを新聞、テレビなどで知った主に越冬支援に来ていた学生、労働者も、かけつけていた。

帰釜報告をしたのは、一月一三日朝六時に山岡さんが射殺されたのを知らされ、急遽、新幹線や車で山谷にかけつけた仲間の半数が十六日の山谷における山岡さんの労働者葬に参加した後帰ってきた仲間たち。

報告によれば、佐藤さんが殺された時と同じく、警察はもっぱら事情聴取の名目で山谷争議団内部の情報収集を行ない、右翼暴力団と手を取り合って、山谷争議団つぶしを狙っていることを露呈しているという。

しかし右翼暴力団の白色テロにも負けることなく反撃は確実におこなわれている。

山谷の仲間はもちろん、海、笹島、そして釜からタタくの仲間がかけつけ、山谷を暴力支配から防衛するための体制を固める一方、当日夜には山岡さんに対する白色テロを怒る仲間の炎が山谷の地で燃えあがった。

玉姫公園で一六日にもたれた労働者葬には三百人を超える仲間が参列し、白色テロを指示した金町一家解体報復戦貫徹を誓った。

市民館に集った仲間も、報告を聞き、同じ日夜仲間の闘いに共感を抱き、今後、山谷の闘いを支えることを確認した。

釜ケ崎越冬闘争報告

医療班

医療券による受診者　三六〇名

市更相での相談数　二二七名のうち、入院四五名、入寮三四名、南港六八名(?)、却下六三名、不明一七名。

12/2～1/3を除くと相談者数一一七名、入院三二名、入寮二九名、却下四八名、不明八名である。

傾向としては、医療費一割負担のせいか、通院者一三三名と、軽傷、通院者の相談が増加している。

炊き出し班

パック弁当

医療班の相談者用十七回五八〇個。市内医療パトロール三回一七〇個。三角公園七回二、四四〇個、汁八回。

ノド自慢大会カス汁四〇〇人。

モチつき大会モチ米八〇キロ、甘酒四〇〇人。ソストボール大会メシ一斗、汁、ラメン六〇個など、